

みんなで作る淀川大図鑑 山と海をつなぐ 生物多様性

見学ワークシート

入場料: 中学生は無料です。

高校生・大学生は 300 円ですが、このワークシートの提示で 200 円になります。

会場の地図は、入口でお渡しします。



学校名:	年 組
名 前:	

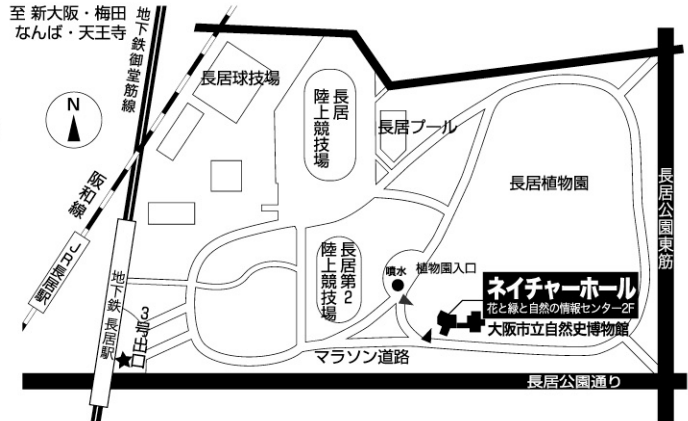


期 間 平成22年7月24日(土)～9月20日(月・祝)
開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)
休館日 毎週月曜日(9/20 臨時開館)
観覧料 高校生・大学生 300円 / 中学生以下 無料

*博物館本館・植物園への入場は、別途料金が必要です(セット券を除く)

会 場 **大阪市立自然史博物館**
ネイチャーホール(長居公園 花と緑と自然の情報センター2F)
〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23 **06-6697-6221**

アクセス 地下鉄御堂筋線「長居」3号出口 →東へ約800m
JR阪和線「長居」 →東へ約1km



次の文章は、淀川のいくつかの場所について書いたものです。カッコ()を埋めてください。

- ・(a:)は日本一大きいだけでなく、日本で最も古い湖であり、世界では(b:)番目に古い。
- ・木津川・宇治川・桂川が合流する京都府南部には、昭和の初めまでは(c:)池という非常に水草の豊富な大きな池があった。
- ・明治時代に淀川を改修した際につくられた、流れをゆるやかにするために両岸から突き出した「水制工」がもとになり、(d:)ができた。人工の構造物だが、タナゴのなかまで天然記念物の(e:)など、さまざまな生き物の住み場所として、大切な場所ともなっている。
- ・うどのむかいじま 鵜殿や向島などの河川敷には、広大なヨシ原が広がり、ノウルシヤトネハナヤスリ、タコノアシなど、希少な植物が見られる。こうした植物は、たまに起こる(f:)によって水や泥でおおわれ、ヨシ原が部分的に壊されて裸地になることで生きのびてきた。
- ・ヤマトシジミは淡水と海水が混じった(g:)域にすむ貝であり、海の水がさかのぼることを防いでいる(h:)より上流には生息しない。



ここだけにいる生き物「固有種」

琵琶湖淀川水系には、世界でもここにしかない「琵琶湖淀川水系固有種」がいます。展示を見て、名前を 3 種類あげてください。また、名前を聞いたことがあるものには下線を引き、実際に見たことのあるものには名前に○をつけましょう。

名 前	気づいた特徴、感想など



在来種と外来種

<在来種とは>

もともとその地域に、自然に分布している生き物です。例えば、昔から淀川の河口にいるヤマトシジミや、河川敷で巣をつくってくらすカヤネズミは、淀川の在来種です。

<外来種とは>

もともとその地域にはいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生き物です。例えば、アライグマは北アメリカからペットとして輸入され、その後野生化したもので、淀川では外来種です。

淀川にはたくさんの外来種がいます。外来種が入りこむと、もともとの生態系を変えてしまい、在来種が減る原因にもなります。次にあてはまる外来種をできるだけ書き出し、実際に見たことのあるものには○をつけましょう。

在来種を食べてしまうもの	
大量に増えて、在来種のすみ場所をうばうもの	
在来種と外来種の雑種ができてしまい、純粋な在来種を減らしてしまうもの	





プラナリアの分布を見て考えよう

二つに切っても再生することで知られる「プラナリア」。淀川水系には4種のプラナリアがいます。そのうちの2種、在来種のナミウズムシと、外来種のアメリカナミウズムシの分布図を見てみましょう。

Q4-1: 淀川水系のナミウズムシとアメリカナミウズムシは、どのような分布をしているのでしょうか。

- A: ナミウズムシは平野部に、アメリカナミウズムシは山間部に生息している。
- B: ナミウズムシは山間部に、アメリカナミウズムシは平野部に生息している。
- C: ナミウズムシとアメリカナミウズムシは、どちらも平野部に分布し、山間部には分布していない。
- D: ナミウズムシとアメリカナミウズムシは、どちらも山間部に分布し、平野部には分布していない。

答え:

Q4-2: この分布から、ナミウズムシとアメリカナミウズムシはどのような環境を好むと考えられるでしょうか。次から2つ選びなさい。

- A: ナミウズムシは水温が低く、水のきれいな環境を好む。
- B: アメリカナミウズムシは水温が高い環境を好む。
- C: ナミウズムシは水温が高く、水がよごれている環境を好む。
- D: アメリカナミウズムシは水温が低い環境を好む。

答え:

と

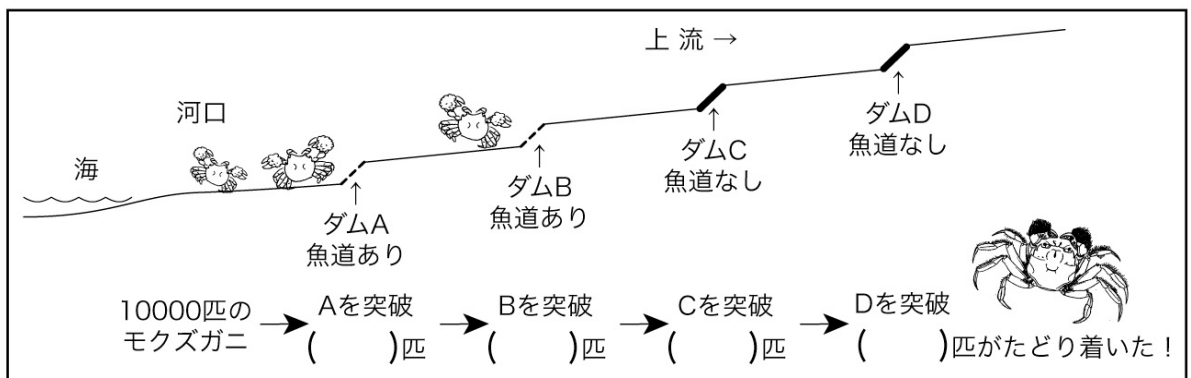


モクズガニはどれだけ生き残る?

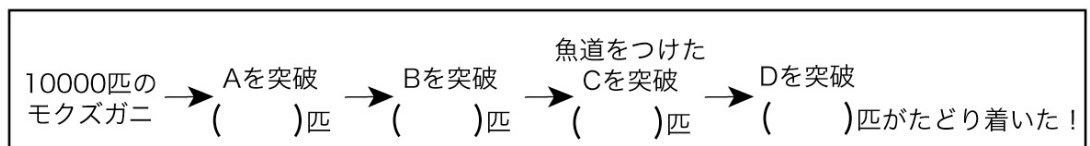
モクズガニは海で産卵し、子ガニは川をさかのぼりながら成長します。ところが、途中には水道や農業用水のための小さなダム(取水堰しゅすいせき)や、山崩れの被害を防止する砂防ダムなど、モクズガニがさかのぼるのに障害となる人工物がたくさんあります。

ある川に、河口から順に魚道付きのダムが2つ、魚道なしのダムが2つあります。魚道付きのダムなら全体の30%のモクズガニが、魚道なしのダムなら10%のモクズガニが越えられるとします。

Q5-1: 今、河口から10000匹のモクズガニの子ガニが川をのぼり始めました。4つのダムを越えて上流にたどりつけるのは何匹でしょうか。



Q5-2: 魚道なしのダムの一つに、新たに魚道をつけました。上流にたどりつけるモクズガニは何匹になるでしょうか。





河川環境の変化

同じところをずっと流れているような淀川ですが、実はこの 150 年くらいの間に大きく変化しています。展示された地図や写真を見て、それぞれの時代にどんなことが変化したか、気付いたことを書き出してください。

それぞれの時代	気付いた変化
明治時代 (明治 18 年と明治末の地図をくらべてみよう)	
大正から昭和のはじめ (明治末の地図と 1940 年代の写真をくらべてみよう)	
1960 年代から 1980 年頃にかけて (写真をくらべてみよう)	
1980 年代から 2000 年代にかけて (写真をくらべてみよう)	



川と私たち

大都市を流れる淀川水系に、なぜたくさんの生き物がいるのでしょうか。淀川のどんな特徴が重要なのかを考え、大都市にすむ私たちと、淀川の生き物がどうすれば共存できるのか、あなたの意見を書いてください。

